

# メディカル メガバンク通信

医療でつながる、  
未来がひろがる。

いわて東北メディカル・メガバンク機構本部（岩手医科大学 矢巾キャンパス）

## IMM地域住民健康調査への ご協力者が3万人を超えました！

2013年9月2日から開始したこの健康調査は、  
おかげさまで協力者が3万人を超えました。

事業にご協力くださった皆さま、  
関係者の皆さまに心よりお礼申し  
上げます。



当機構ロゴマークは、メディカルとメガバンク  
のMをモチーフにしており、ハートの形をした  
リボンは被災地と医療が健康という絆で結  
ばれていることを表しています。ハートは心の  
通う医療を意味し、リボンは医療と人間・地  
域・未来を結ぶ象徴としております。

# 平成27年度I・M・M地域住民健康調査は 多くの方々にご参加いただきました。 引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

## 謝辞



機構長 祖父江 憲治

皆様方のいわて東北メディカル・メガバンク機構への御理解と御協力に心より感謝申し上げます。

平成23年の3・11津波震災被害に伴う岩手県被災地域の医療復興支援と住民の方々の健康調査、さらに次世代個別化医療に向けたゲノム解析を目的として文部科学省の支援を受け、平成24年において東北メディカル・メガバンク機構が岩手医科大学に設置されました。その後、平成25年度より被災地域を中心として健康調査と健康教室の開催をはじめとする健康意識向上に向けた活動を開始いたしました。

健康調査につきましては、健康調査参加者の皆様方の健康状態の把握と今後の病気予防への認識を高めていただくため、検査結果を返却し、併せて結果説明会などを開催いたしました。

健康調査会場では、各地において当健康調査への参加希望が多く、厚い御支持の下に健康調査事業を実施させていただきました。お陰様をもちまして、12月18日に岩手県での参加者予定数である3万人を超える方々に御協力いただき事が出来ました。これもひとえに地域住民の皆様、対象市町村、さらに文部科学省と日本医療研究開発機構（AMED）の御理解と御支援によるもので、心より御礼申し上げます。

当事業は平成27年度で一回目の健康調査が終わり、続いて二回目の健康調査に向けた準備等を行ってまいります。いわて東北メディカル・メガバンク機構は、被災地域から岩手全県に広がる健康増進に繋がる運動に向け努力してまいります。今後共に変わらぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

## I・M・M地域住民健康調査

平成27年度の特健診参加型健康調査は、10市町村（一戸町、軽米町、二戸市、九戸村、山田町、陸前高田市、久慈市、洋野町、普代村、野田村）のご協力の下に実施させていただきました。9001人の住民の皆さまにご参加いただきました。また、沿岸地域の活動拠



▲山田町▶



▲陸前高田市▶



点であるサテライト（久慈、宮古、釜石、気仙）と矢巾センターでのサテライト健康調査も3000人を超える多くの方々にご協力いただきました。今年度をもちまして一次調査は終了することとなりますが、引き続き、追跡調査への協力をお願いいたします。

## 追跡調査にご協力ください

I・M・M地域住民健康調査は、一人ひとりの健康状態を数年間にわたり追跡し、未曾有の震災のストレスによる健康への影響などを調べます。そのため、健康調査後、数回にわたり皆さまの健康状態をアンケートでお伺いします。初回の調査票より質問量は少なく、記入時間は15分程度です。引き続き、皆さまのご協力をお願いいたします。



# イベント&メディア情報

## 健康フェスに参加

9月12日に岩手医科大学創立120周年記念イベント「健康フェス2015」に参加しました。当日は約1600名の方が来場され、当機構ブースにも多くの方にお立ち寄りいただき、健康調査にお申込みいただきました。



## カシオペアFMに生出演

7月7日に臨床研究・疫学研究部門の佐々木特命助教が、カシオペアFM（二戸市）の「んだなっす」に生出演し、メガバンクの健康調査の目的や、住民の皆さまに協力ををお願いする内容、調査にご参加いただくメリットなどお話をしました。



## 集団結果説明会を開催

特定健診参加型健康調査にご協力いただいた皆さまを対象に、結果説明会を開催しております。血液検査や尿検査など、順次お送りしております結果報告書の見かたをご説明するほか、個別相談も実施しております。これからも健康調査実施地域では説明会を開催する予定です。対象地区の皆さまは、是非ご参加ください。



▶ 軽米町



▲ 二戸市

▶ 九戸村



▲ 山田町

## 東海新報連載

気仙地域を中心に発行されている東海新報に、当機構の取組みについての記事「復興は健康からII」が連載されました(全9回)。臨床研究・疫学研究部門の丹野副部門長による市民公開講座での講演や、同部門の佐々木特命助教による健康づくりと文化について、また、生体情報解析部門の清水特命助教による個別化医療・個別化予防についての記事が掲載されました。



記事は当機構HP  
<http://iwate-megabank.org/post-3139/>  
 でご覧いただけます。

## 1MM地域住民コホート調査結果報告会を開催

2月5日に、岩手医科大学矢巾キャンパスで当事業対象地域の自治体や保健所、および予防医学協会の皆さまへ向けた報告会を開催しました。各地域の健康づくりに役立てていただけるよう、健康調査の分析結果を報告すると共に、追跡調査の実施など今後の活動方針についてご説明しました。



## 平成27年度 下半期の活動報告



平成27年

10月1日 軽米町集団結果説明会開催

5日 陸前高田市健康調査開始

11月30日 二戸市集団結果説明会開催

12月10日 九戸村集団結果説明会開催

平成28年

1月4日 久慈地域(久慈市、洋野町、野田村、普代村)健康調査開始

7日 二戸町集団結果説明会開催

25日 山田町集団結果説明会開催

2月4日 宮古市保健推進員(宮古地区・田老地区)研修会で健康教室開催

5日 1MM地域住民コホート調査結果報告会開催

10日 岩泉町保健推進員研修会で健康教室開催

22日 陸前高田市保健推進員研修会で健康教室開催

26日 二戸市集団結果説明会開催

29日 陸前高田市集団結果説明会開催

3月7日 山田町集団結果説明会開催(予定)

28日 陸前高田市集団結果説明会開催(予定)

(平成28年2月29日現在)

## 東北MM計画の目的の一つである個別化予防・個別化医療の開発についてご紹介します。

個別化予防・個別化医療とは、一人ひとりの体質にあった予防や医療です。体質は遺伝的素因（親から子に伝わるもの）と環境要因（生活習慣など）が組み合わされてできている個々人の性質です。したがって、個別化予防・個別化医療を実現するためには、一人ひとりの遺伝的素因と環境要因を理解する必要があります。

### 体質

遺伝的素因



環境要因

生まれ持った体質  
遺伝子によって  
決まる

後天的な体質  
生活習慣によって  
決まる

はじめに、遺伝的素因を血液型やお酒に対する強さを例にご説明します。両親の血液型がA型であれば、子供の血液型は一部の例外を除いてA型かO型になります。また、お酒に強いか弱いかも親から伝わって決まっています。このような生まれつきの体質は遺伝子によって決まります。

ヒトの体は数十兆個の細胞からなり、血液など核を持つ細胞の一つひとつに同じ内容の「ゲノムDNA」が入っています。これは30億文字のACGTという4文字（塩基）で書かれているヒトの設計図に相当するもので、遺伝子などをつくるためのすべての情報が含まれています。

10年ほど前までは、一人のゲノムDNAを調べるために数千万円が必要でしたが、今は次世代型シーケンサーという機械を使い30万円ほど調べることができます。しかし、ゲノムDNAを調べただけでは遺伝的素因をすべて知ることができません。ゲノムDNAの中には、1文字の違いで血液型を決めたり、病気の素因となるものがありますが、体質や病気と関係しているとされるその他のゲノムDNAの文字の違いの多くは、体質にどのような影響があるかまだ解明されていません。



▲次世代型シーケンサーを操作する様子

次に、環境要因の例として、お酒に対する強さの変化が挙げられます。お酒に弱かった人がお酒を飲み続けることでお酒に強くなる、つまりお酒に対する体質が変わる場合があります。お酒の強さは遺伝的体質で決まりますが、飲み続けることで体の中の遺伝子の働き方が変わり、体質が変化することがあります。

生活習慣病と呼ばれる脳卒中、心筋梗塞、がんなどの病気、そしてこれらを引き起こす原因となる高血圧や肥満、高脂血症、糖尿病などは、遺伝的素因と環境要因の両方の影響を受けて発症することが知られています。当機構では、参加者の皆さまのゲノムDNAと、病気の発症や健診での検査値などとの関連性から正確な遺伝的素因による体質を調べると同時に、生活習慣などから調べた環境要因による体質との関係を解明するため、研究に取り組んでいます。